

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：自転車空間整備	
日付：11 月 1 日（土）曜日、セッション時間：10：45～12：15	
司会者名（所属）：屋井鉄雄（東京工大）	
討 議 内 容	セッション全体：本セッションは自転車空間整備というタイトルが付けられているが、走行空間に関する報告 1 編と、路外と路上の駐車空間に関する 2 つの報告から構成されていた。歩道上などの駐車空間の確保についても大きな課題であるが、昨今最も重視されつつあるのは、自転車の道路上の走行空間をいかに確保・再配分するかである。現在、全国で自転車走行空間に関するモデル地区の整備が展開されるなど、最近の取り組みには目覚ましいものがある。しかし、過去に同様な取り組みがあり、それらが必ずしも成功しなかったこと、また過去の構造令に早い時期から自転車の扱いがされていたことなど、興味深い事実の報告があった。このような知見を共有できたことは、今後の自転車空間に関わる研究に対しても有意義であったと考えられる。
	（89）元田良孝（岩手県立大学）： 日本の自転車道整備の歴史的経緯が報告された。特に 1919 年の街路構造令にあった自転車道の記述が 1958 年の道路構造令で消滅していること、1964 年には既に国道 192 号（徳島）で車道レベルに切り下げた自転車道が整備されたこと、1973 年に自転車安全利用モデル市制度が作られたが長続きしなかったことなどが説明され、道路管理者への啓発、研修の必要性、192 号がその後歩道レベルにかさ上げされて自歩道となったこと、道路財源のガソリン税の負担を自転車がしていないことと、整備が進まないこととの関連性などについてフロアーと議論が行われた。
	（90）中司健雅（福井工業大学）： 福井駅周辺の駐輪の実態と対策を明らかにするため、周辺に設置された仮設自転車駐車場の廃止に伴う利用者の意向調査を行い、その結果と今後の方向性に関する報告が行われた。これに対して、発表内容に関する確認、有料化の是非に関する議論、料金の差別化などに関する他都市の取り組みの紹介、商店街のクーポンなどによる協力の可能性などについて質疑応答やフロアーからの話題提供が行われた。
	（91）舟渡悦夫（大同工業大学）： 名古屋駅周辺の歩道上自転車駐車場の整備状況と利用実態に関する報告がなされ、名古屋駅が全国ワースト 1 で 3000 台を超える違法駐輪があること、歩道上の自転車駐車場が有料化され収容台数が減ったことと、多くの自転車が違法駐輪となっていることから、撤去、引き取りの方法を再検討する必要があることなどが示された。これに関して内容の確認などを中心にフロアーから質疑がなされた。